
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第156号

-環境・農業・食べ物など情報の交流誌-

2005.04.07 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm

*****発行部数 1429 部*****

□ 目次 □-----

<今週の提言> マスコミの誤報とその責任 林 尚孝

<旬を食べるー野良からの便り・21> “野蒜(ノビル)” 小泉浩郎

<読者の声> 長谷川さんから

<80才からのメッセージ>

新藤兼人監督の怒りと挑戦

ー開拓民の無念を映画でドラマ化するー 原田 勉

<日本たまご事情>

「あなたの知らない卵の話」 NHKスペシャル 齋藤富士雄

<高齢者の健康情報>

長寿社会を生き抜くために【2】

家庭で出来る簡単筋力トレーニング法(その1) 原田 勉

<ミニ解説> 農業・農村の組織とその役割(7) ー普及センターー 石川秀勇

<編集後記・同人の近況報告> 3月24日ー4月6日

<今週の提言> マスコミの誤報とその責任

2月23日の朝日新聞夕刊文化欄に目を疑う見出しが躍っていた。「『舞姫』
モデルの消息記す」という大見出しの脇に「鷗外同窓生の手紙を発見」とあつた。
山崎國紀花園大名誉教授執筆の、帰国したエリーゼに係わる興味深い書簡
が見つかったという評論である。

鷗外と東大医学部での同級生小池正直が、1889年4月16日付で、上司石黒忠
恵軍医監宛にドイツから手紙を送っていた。その発見者高橋陽一氏(山田赤十
字病院長)が、エッセイとしてまとめたものを、山崎國紀氏に送った。山崎氏
はこの小池書簡によって、ドイツに帰国したエリーゼの消息が116年ぶりにわ

かり、「伯林賤女（＝エリーゼ）」と鷗外との関係が手切れになったと解説していた。

小池書簡の原文を見ると、明らかに山崎國紀氏と高橋陽一氏の誤読であることがわかる。この書簡の特徴は、段落を大きな「○」で区切っているところにある。書簡は、三段落からなり、第一段落は別件。第二段落は、橋本春規と「賤女」について、第三段落は、森林太郎についての文章である。山崎氏は（略）を間に挟んで第二段落と第三段落を結びつけて考察し、「賤女」と鷗外を結びつけている。第二段落は、橋本綱常軍医総監の子息春規について述べてたものなので、「賤女」は春規と関係ある女性と考えなければならない。

山崎氏の名誉にもかかわるこの誤読は、その後も一人歩きしているらしく私に会うと友人たちがこの問題を持ち出して論戦を挑んでくるので辟易している。

山崎氏に責任があるのは勿論であるが、専門家の誤った見解をそのまま載せる新聞社の責任はないのだろうか。この記事の影響の大きさを何回も実感させられているが、新聞社は、専門家の責任であると責任を転嫁するのであろうか。これは百年以上も前の事件に関する評論で実害はないが、より重大な誤報の場合の責任はどう取るのだろうか。

誤読の詳細は、4月末に刊行される拙著『仮面の人・森鷗外-「エリーゼ来日」三日間の謎-』（同時代社）に詳しく書いたので興味のある方はご覧いただければ幸いである。

林 尚孝

山崎農研会員・茨城大学名誉教授

y.nouken@taiyo-c.co.jp

<旬を食べるー野良からの便り・21> “野蒜（ノビル）”

畑の青物が少ない春先、食卓を豊かに飾ってくれるのが山野草である。セリ、フキノトウ、ヨモギ、そしてノノヒロ。北関東では野蒜（ノビル）をノノヒロと呼ぶ。「野のヒル」が「野のヒロ」と訛ったのだろう。

蒜（ヒル）は、ネギ、ニンニク、ラッキョウ等のことの総称だと言うから、

およそ、その香り、味覚は想像できる。だから、子供の頃は、身体によいと聞かされながら、苦手な食べものの1つだった。だが、歳を重ね還暦を過ぎる頃から、春先になるとノノヒロ料理が食べたくなる。ノノヒロは、貧血や歯や骨の健康によく、胃腸を丈夫にするという。ノノヒロが頭をよぎるのは、ただ、昔を懐かしむだけでなく、齢を重ねて弱ってしまった胃腸や骨が、また、血の巡りが悪くなった身体が要求しているのかも知れない。

ノノヒロは、結構、野原や土手で眼にするが、程よい大きさのもの少ない。球根が直径1 cm 以上、ネギでいう白い茎の部分が5 cm 以上であるものが、小生が摘み取る上品だ。それにはやわらかい土と日当たりのよさが必要だが、自然の山野でも放置しておく、日当たりのよいところは、ヨモギ、ススキ、セイダカアワダチソウなど草丈の高い植物で被われ、背丈の低いノノヒロ、タンポポ、スマレ、オオバコなどは、すっかり日陰に追いやられてしまう。日陰のノノヒロは、小さく細くゆがけば糸のようになってしまう。

早春、豊かに食卓を飾ってくれる山野草は、間違えなく野や土手に自生する自然の恵みだ。しかし、その恵みは自然放任で維持されているわけではない。むらびとの無償のむら仕事（数度の土手や畦の草刈や道普請など）によって維持されていることを是非知ってほしい。

少し前の話だが、京都府は、むらびと（集落住民）が無償で行うこれらの共同管理作業の時間を調査した。年間延べ約35万人、120万時間、金額にして23億円とした。けして表に出ていないが、いま流行りのボランティア活動は、とうの昔から当然のこととして行われてきたのだ。

だから、野草つみにもモラルがあり、ルールがある。先の上物といわれるノノヒロは、10数本に1本程度しかない。その1本を抜くにはコツがある。ただ引き抜くだけでは、途中で切れてしまう。竹の箸を用意し、周辺の土を柔らかくにして抜き取る。ところが、山野草ブームはよいが、掟破りが多い。園芸用のシャベルで数10本を抜きとり、必要な数本を選んで残りを放置していく。それは、生育を傷めるだけでなく、土手の土を崩すことにもなる。

採りたてのノノヒロを水で洗うと真っ白でまん丸な球根が目飛び込む。葉の緑と対象的だ。そのまま味噌をつけて食べると爽やかな辛味が口一杯に広がる。ツーンと鼻をくすぐる香り、ヌルッとした舌ざわり、そしてシャキシャキとした歯ごたえ、早春の味そのものである。

小泉 浩郎
山崎農業研究所事務局長
y.nouken@taiyo-c.co.jp

<読者の声>

●04/04 長谷川さんから

桜の蕾もだいふふくらんで春らしくなって参りました。
お変わりございませんか？
「夢のかげら」も早いもので4年目に入りました。
お忙しいとは存じますが、のぞいていただけたら幸せです。

わたしには夢がたくさんあります：「夢のかげら」

<http://www.h3.dion.ne.jp/~nanchan/>

更新のお知らせ

荒石かつえの民話と紙芝居出前公演予定表

<http://www.h3.dion.ne.jp/~nanchan/kikukai/kikukai.html#katue>

「船橋の民話をきく会」15周年特別講座

「民話の魅力」(全6回)開催のお知らせ

<http://www.h3.dion.ne.jp/~nanchan/kikukai/kikukai.html#osaso>

わかば,リーフ君となんちゃんの交換メール

<http://www.h3.dion.ne.jp/~nanchan/ri-hu/ri-hu.htm>

花めぐり：森のふしぎ

<http://www.h3.dion.ne.jp/~nanchan/hana/hana.htm#mor>

<80才からのメッセージ>

新藤兼人監督の怒りと挑戦

—開拓民の無念を映画でドラマ化する—

3月8日、銀座で開かれた大洞東平氏の写真展（153号で紹介）で、新藤兼人監督（92歳）とめぐりあい、満州開拓民の話聞く。

新藤監督は、昭和17年、映画脚本取材のため、満州開拓移民の村を訪ね、その貧困を見た。

戦後は、開拓民を送り出した、長野県の村を取材した。戦時中、30万人余りの移民は、敗戦で軍隊に置き去りにされ、半数が死亡する悲劇になった。

日本に帰った半分の方は、自分の村に定住することはできない。再び全国各地の山奥の村に開拓者として入植したが栄養失調で3年余りで全滅。村を出て行った。

青森のロケハンで聞いた話では、開拓村の最後に残った母と中学3年生が売春していたという。ダム建設にきた人をお客としていたが、ダムが完成したらどこかへ行ってしまったという。

満州開拓民は、国に騙されて満州へ行き、命からがら帰国すると、帰るところがない。県では机上プランだけで入植させたが成功しない。それは「君たちの努力が足りないから」という。

つまり開拓民は、国家によって二重に裏切られたのだ。

以上の事実をもとに、その怒りをドラマ化したいと思ったのが新藤監督90歳の時だった。

90歳の老監督が開拓民の無念という重いテーマをブラックユーモアに包んで新しい映画づくりをやったのけた。以下創作ノートを引用して紹介する。

「東北某県の希望ヶ丘開拓村で奇怪な殺人事件が起きた。1980年夏、九体の白骨体が出てきたのだ。

この開拓村には、かつて二十軒の開拓者がいたが、入植以来三十数年、苛酷な土地改良条件を克服できず、一軒二軒と去り、最後に一軒残ったが、これもとうとう姿を消したのである。

開拓村の人たちは、戦時中、満州開拓移民団として、国策の誘いにのり、新

天地に大いなる夢を抱いて渡満したが、敗戦となって死地を脱して帰国した。が、一旦捨てた故郷に住む土地がなく、再び未知の土地に入植したのであった。

最後に残った家族は、母親と娘で、この母と娘が姿を消した一年後、九名の白骨死体が出てきたのである。母娘と白骨死体は関係あるのだろうか。

母と娘は、どこへ行ったのであろうか。その所在が知れない。母と娘と共に、開拓村の麓の村の駐在所巡査が消えている。また、県の引揚者援護係の男性、電気会社の技師、水道局の係官、ダム工事の労働者三名、などの姿が消えている。

このミステリーを森に住む、梶が一部始終見ていた。」

開拓村の母娘は、脱出する前に、何か一言言い残して脱出したい。売春という体を提供して殺人事件をやる。国家権力を代表する人たちを次々に殺していく。

新藤監督は、満州開拓に農民を追いやって使い捨てにした日本国への怒りを「重くて軽い喜劇」として映画化したのである。

詳しくは、岩波アクティブ新書『ふくろう 90歳の挑戦』をご覧ください。そこには、映画づくりの実際、撮影日記、シナリオが併載されている。シナリオだけでも読んで面白い物語。

主演は、大竹しのぶ（本作の演技で2003年モスクワ国際映画祭主演女優賞を受賞）。俳優も個性的な人が、十数人そろっている。ぜひ観て欲しい。

◆岩波アクティブ新書 『ふくろう 90歳の挑戦』新藤兼人

<http://www.iwanami.co.jp/hensyu/active/lineup/spec070.html>

ISBN4-00-700070-0 カラー16ページ付 定価 798円（税込）

◆映画「ふくろう」紹介

【スタッフ】

原作・監督・脚本・美術：新藤兼人

製作：新藤次郎

撮影：三宅義行・林雅彦

音楽：林光

照明：山下博

録音 : 武進

編集 : 渡辺行夫

製作 : 近代映画協会

【出演】

大竹しのぶ(『阿修羅のごとく』)、伊藤歩(『きょうのできごと』)、
木場勝己(『タイムレスメロディ』)、柄本明(『ゼブラーマン』)、
原田大二郎(『三文役者』)、六平直政(『修羅雪姫』)、
魁三太郎(『NHKお江戸でござる』)、田口トモロヲ(『刑務所の中』)、
池内万作(『光の雨』『突入せよ!「あさま山荘」事件』)、
蟹江一平(『赤い月』)、大地泰仁(『模倣犯』)

本篇約 119分 2003年製作 カラー

◆VHS ビデオは、レンタル用のみです。

松竹ホームビデオの紹介ページ

<http://www.shochiku.co.jp/video/v00s/ks9404.html>

現在、東京では渋谷・TSUTAYA (ハチ公前すぐ)

<http://www.tsutaya.co.jp/shop/tenpo.zhtml?FCID=2312>

での取り扱いを確認しています。DVD のレンタルもあります。

◆販売用 DVD 「ふくろう」(特典映像付き)

<http://www.shochiku.co.jp/video/dvd/da0388.html>

価格 : ¥4,935 (税込)

<http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/B0002J50VI/>

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

<日本たまご事情> 「あなたの知らない卵の話」 NHKスペシャル

3/12夜、ゴールデンタイムに「あなたの知らない卵の話」 NHKスペシャルは放映された。NHKがどのような意図のもとに卵の話をしようとしているのか、全国の鶏卵関係者は固唾を飲んでこの番組を見ていたに違いない。

私は正直これを見終えてほっとした。印象に残ったのは三つであった。

一つは日本の鶏卵業界が厳しい競争の結果、付加価値卵なるものを開発しそれがスーパーマーケットの鶏卵売りの大きな部分を占めるにいたったこと、その生産現場などが詳しく紹介された。二つ目は中国最大の鶏卵生産会社ハンウェイ社の社長が出ていて、日本をターゲットに卵工場を建設中であるといい、その建設現場が写された。三つ目はアメリカの種鶏会社ハイライン社の紹介があり、ケーシー社長は現在世界中で採卵用の種鶏会社は数社を残すのみとなった現実を話していた。取材は中国、アメリカ、日本と広範囲にわたり、時間と費用をかけたものであった。

見終えてほっとした理由は、全体的に日本の鶏卵業界に対して冷静に事実をありのままに報告していたことである。高価格の特殊卵を良いとも悪いとも云わず判断は視聴者にまかせ、鶏卵でも中国が強力な競争相手となってきている事実を知らせ、育種の世界では世界的な競争が行われているを知らせていた。

私ども鶏卵業界が恐れたのは、偏ったシナリオのもとに業界に悪意をもってこれを報道されることだ。同じ事実を取材しても、シナリオ次第でどうにでもなることを私たちはいやと云うほど経験している。

齋藤 富士雄

(株) 愛鶏園

<http://www.ikn.co.jp/>

<高齢者の健康情報>

長寿社会を生き抜くために【2】

家庭で出来る簡単筋力トレーニング法 (その1)

3月24日、私は、老人総合研究所友の会の交流会に参加して、足腰を主とした家庭で出来る簡単筋トレ法を教えてもらった。

■ 1, なぜ筋力トレーニングが必要なのか?

たとえば入院したとき、絶対安静の状態では、1日に1から1.5%の筋力低下で、筋肉はやせ細り、やがて「廃用性筋萎縮*注」になります。

*注：「廃用症候群について」（鯖江市医師会）

<http://www.mitene.or.jp/~sabaemed/wadai/wadai5.html>

高齢期には、膝や腰に痛みを抱え、安静にしていると衰弱や骨折・転倒で要介護の原因になります。老化の一番大きな問題です。

これを防ぐ方法が、筋トレなのです。階段の昇り降りや腿の筋肉（太腿四頭筋）が収縮して筋肉は力を発揮します。筋肉の働き方を理解して色々な筋トレを計画しましょう。

■ 2、筋トレを行うときの留意点 10 箇条

(1) 無理はしないで徐々に行う。

60 歳を過ぎると急に筋力が低下します。

急激に強い運動をすると筋肉や関節を痛める危険性があります。

はじめは軽く、だんだんに運動の回数を増やすようにしましょう。

(2) ストレッチをしてから開始する。

体が温まっていないと怪我をします。ストレッチで筋弾性が増し、筋肉の温度を高めて怪我が少なくなります。

(3) 水分を補給する。

高齢者は脱水の自覚がないときもあるので、事前にのどが渇いていなくても、水分を補給し、血液をサラサラにして、動脈梗塞を防ぐようにします。

(4) 痛みが起きたら休息をとる。

運動中や運動後に痛みを感じたら、強すぎるという赤信号です。休息をとって、自分のペースで進めましょう。

(5) トレーニング中の転倒に注意

ふらつきそうな時は、何かにつかまって行いましょう。

(6) トレーニング中は息を止めない。

力を入れると自然に呼吸を止めてしまうが、呼吸を止めると
血圧が上がります。

数を数えながら運動すると自然に呼吸ができてリズムがとれるので、
運動は声を出しながら行うと良いでしょう。

(7) ゆったりとしたテンポで「イチ・ニイ・サン・シイ」と行う。

効率的に筋力を向上し、安全に運動を行うには、
ゆっくりしたテンポのトレーニングが効果的です。

(8) トレーニングを自己流に変更しない

それぞれのトレーニングで鍛える筋肉は異なり、
効率的に効果が上がるように計画されているので、
自己流に変更しないこと。

(9) トレーニング内容は複数の種目を行う。

トレーニングごとに目的とする筋肉が異なるので、
多くの種目を行ってバランスの取れたトレーニングをしましょう。

(10) 継続が最も大切

筋トレは数日間やっただけでは目に見えた効果は上がりません。
毎日一步一步地道に継続することで、少しずつ確実に効果が現れます。
マラソンのように、根気よくトレーニングを続けることが
なによりも肝心です。

★具体的な筋力トレーニング法は、次回 157 号に掲載します。

<参考リンク>

東京都老人総合研究所

http://www.tmig.or.jp/J_TMIG/J_index.html

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

普及センター（正確な呼称は「地域農業改良普及センター」）の誕生は、やはり戦後間もない昭和23年とのことです。そして、長いこと「農業改良普及所」という名前で親しまれてきました。農業改良助長法という法律に基づいており、都道府県（以下単に県）の組織として県内ブロック単位（1県平均7〜10カ所）に置かれております。

組織には、身分は県の職員ですが、国と県との協同での設置である「改良普及員」が1普及センターに15〜20人程度従事し、普及事業の活動に当たっています。

では、その普及事業で具体的にどんな活動をされているかということ、管内の農家を対象に農業経営・農家生活の改善に関する情報の提供（情報誌、研修・講習会、栽培技術に関する展示圃場の設置など）、及び新規就農を促進するための情報提供や相談といったことです。

この普及事業では、一つには試験研究の成果の活用を重視していますので、先進的な技術導入をするような場合に積極的な支援をいただくことが期待できましょう。また、新規就農者に対する技術的、経営的側面からの様々な支援を行うようにもしており、要請に応じていただくことが大いに期待できましょう。

法律の新たな改正があり、普及センターの事業は、平成17年度からより機動的、弾力的な活動を展開する方向であるとのことです。しかし、従前とおり、情報の提供等の支援活動を受けた際に農家サイドで経費負担を要することはなく、いっさい公費による制度で続けられます。ですから、普及センターに日頃のうちから相談の連絡をとれる関係をつくっておき、必要があれば支援していただく。そういうことを心がけていったら良いのでは、と思われまます。

*

今回で予定した各組織をひととおり紹介しました。地域振興の方針などを協議する場として各組織等の加わった＜協議会＞がつくられる。関連して、そういったことがあります。他日にゆずることとし、これで本稿を終えたいと思います。（おわり）

石川 秀勇

山崎農研会員、野田市在住

y.nouken@taiyo-c.co.jp

<編集後記・同人の近況報告> 3月24日～4月6日

前号の<旬を食べる―野良からの便り・20>を読んで、わたしもセリ摘みに出かけた。といってもはっきりとしたあてがあったわけではない。ただ、近所の“あのあたり”ならばたぶん生えているだろうと思っただけのことだ。

“あのあたり”というのは、農業用水沿いのくぼみ地である。雨が多い時期は10センチほど水が溜まるが、いまごろはまだ周囲よりも湿り気が強いくらいである。でも、近所でセリがはえているとすればあそこしかないだろう…と思っただけで出かけてみた。

できすぎた話のようだが、子どもたちを連れてそこに行ったとき、草を摘んでいる中年の女性がいた。「……セリ摘みですか？」と声をかけると、「そうよ！」と明るい声がかえってきた。町場に住んでいるのだが、この時期になると毎年ご主人と一緒に摘みにくるという。カッターナイフで手際よく摘んでいくその様子は、そうとうキマっていた。

おぼつかない手つきでわたしがセリを摘みはじめてしばらくすると、「持って行きなさい」といって一つかみのセリをごそっとくださった。たぶん、見てられない…、というかそんなへたくそな摘み方では、いつになってもおわらないし、根を傷めてしまう（そして来年摘めなくなってしまう）と思ったのだろう。

家に帰って、いただいたセリを茹でてかつおぶしをぱらりとかけて食べた。鮮烈な味と香りは春の訪れそのものであった。身近なところでセリが見つかったのもうれしかったが、野の草と付き合う人に出会えたことのほうがもっとうれしかった。

(山崎農業研究所会員・田口 均)

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

◎投稿アドレス変更のお知らせ

電子耕への投稿アドレスは、発行人の変更に伴い、

y.noken@taiyo-c.co.jp

となっております。投稿される方はこちらのアドレスをお願いします。

次回 157号の締め切りは4月18日、発行は4月21日の予定です。

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45 『メールマガジンの楽しみ方』

著者：原田 勉 定価：735円 発行日：2002年10月4日

発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

『電子耕』から大切なお知らせ

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag.html

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第156号

バックナンバー・購読申し込み／解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag2.html

2005.04.07 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp>

***** ここまで『電子耕』*****

.